

平成 28 年 7 月 1 4 日

各位

群馬県医療ソーシャルワーカー協会
会長 中井正江
理事会 在宅医療推進委員会

在宅医療推進研修のご案内

皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、在宅医療推進委員会・理事会の共催により、下記のように研修会を開催することに致しました。貴重な機会になりますので、皆さまご多忙かとは思いますが、ぜひご参加いただきますようお願い申し上げます。

なお、お申込は平成 28 年 7 月 21 日（木）までに、文末にありますメールアドレスへご連絡ください。よろしくようお願い申し上げます。

1. 趣 旨

在宅医療推進委員会では、地域包括ケアシステムという概念の中で、MSW として何ができるのか、何が求められているのかを検討しているところです。こうした状況において、先駆的な取り組みをしている関係機関の方からお話を伺うことで、会員全体で学び、考える場とし、今後の実践の一助となることを目指します。

2. 日 時：平成 28 年 7 月 23 日（土）午後 2：00～午後 3：30

3. 場 所：ぐんま男女共同参画センター大研修室（別紙参照）

4. 対象：医療ソーシャルワーカー

5. 定員：100 名

6. 内 容

○テーマ「地域包括ケア時代における医療ソーシャルワーカーの役割」

○講 師 北海道医療ソーシャルワーカー協会 会長

社会医療法人 明生会 道東脳神経外科病院 理事 副院長（管理部門）

事業管理部長 ソーシャルワーカー 関 建久

講師より

「地域包括ケアや在宅医療の推進は、超高齢化が本当の理由ではない。猪飼が言うように 20 世紀の病院が台頭した時代に対する反省という地域住民のヘルスケア思想の転換がその理由だ。中略・・・地域包括ケアが推進すると患者の療養先は見つかるだろうか。きっと見つからない。ではどうしたらいいのか。中略・・・病院に MSW がいる意味とこれからの MSW に求められることについて上記を概説しながら講義する。講師は病院のマネジメントをしている立場でもあり、経営者から見た MSW への視点についても言及する。

また、医療と介護の連携が叫ばれている。互いに連携することが重要らしい。では医療と介護が連携したあかつきの状態、つまり連携が成功した状態はどんな状態だろうか。実はこのことは誰も発言していない。中略・・・講義では演者が北海道で取り組んだ事例を失敗例とともに紹介する。入退院支援連携の入り口である病院とケアマネジャーの連携構築への取り組み例を紹介する」

申込方法：E-mailにてお申込み下さい。

申込み先：msw@harunacoop.com

*メールには、下記についてご記入ください。

- 群馬県医療ソーシャルワーカー協会主催「在宅医療推進研修」参加の旨
- 申込み者の氏名、職種、所属機関の住所、電話番号

*** 受付後に返信のメールをいたします。**

定員に達した場合にはお断りしますのでご了承ください。

問い合わせ先：
高崎中央病院 地域連携室
 ソーシャルワーカー 富岡 真理子
〒370-0043
群馬県高崎市高関町 498-1
TEL:027-323-2665（代表）
FAX:027-384-2202（直通）

「ぐんま男女共同参画センター」は県庁西側の利根川沿いにあります



自動車、バイクまたは自転車でお越しの場合は、**県庁内「県民駐車場」**または「自転車・バイク置場」をご利用ください。県庁構内からは、下図を参考に、県庁西側の道路の横断歩道をご利用の上、ご来館ください。

